

## 10月22日（土曜日）

初日、最初の目的地は福島駅から北に約15分の場所にあるJA新ふくしま農産物直売所『こちら矢野目店』です。農家さんが直接持ち込んだ新鮮な野菜を安く買えるため、初日がスタートしたばかりにも関わらず、参加者は好きな果物、初めて見る野菜など興味深々で買い物を楽しみました。各農家さんの努力により、栽培方法等の申請が厳密にされ放射性物質検査をクリアし、安全が確認されている農産物がたくさん並んでおり、事務局もたくさんの果物を購入しました。

昼食は吾妻山の麓に移動し「流しそうめん『吾妻庵』」で、流しそうめんセットをいただきました。少し寒い時期だったことを心配してくれたお店の方の気遣いで、流しそうめんの他にも「ニジマスの塩焼き・クレソンの天ぷら」更に温かい「豚汁」もサービスしていただき、参加者は大満足でした。景色を楽しみながら、大勢で流しそうめんを食べる機会はなかなか無いと思います。参加者に楽しい思い出ができました。



午後は、まだ皆満腹だったのですが「みちのく観光果樹園」でりんご狩りを体験しました。思い思いのりんごを選び、自分で剥いて食べる（剥けない場合は、果樹園の方が剥いてくださいました。）美味しく楽しい体験になりました。

果樹園の方からは、震災後の風評被害について、現在の立ち直りとインバウンドに力を入れているという説明を聞き、福島の農産物の現状を学びました。参加者は、日本のりんごは大きく美味しいと感動し、数種類のりんごの食べ比べをして楽しんでいました。



次の見学地は、土湯温泉バイナリーです。土湯温泉観光協会の方に案内していただき、温泉熱を活用したバイナリー発電や魚の養殖（フグとウナギで実験中。来春にはえびの釣堀がオープン予定）ミラクルフルーツの栽培（試験栽培中）の再生可能エネルギー・クリーンエネルギーについて学びました。土湯の源泉は130℃と高温の温泉が豊富に湧き出しており、蒸気で野菜を茹で、源泉で卵を茹でて温泉卵を作って食べたりすると、学ぶだけではなく美味しい見学となりました。





初日の締めくくりは「こけしの色付け体験」です。日本の伝統的な民芸品であるこけしが、赤ちゃんのおしゃぶりから子どものおもちゃ、オママゴトの人形として使われていく成り立ちを聞き、こけしの基本的な色彩を分かりやすく説明していただきました。その後、自分で色を付け、オリジナルのこけしを作成しました。参加者は時間ギリギリまで熱中し、良いお土産ができました。

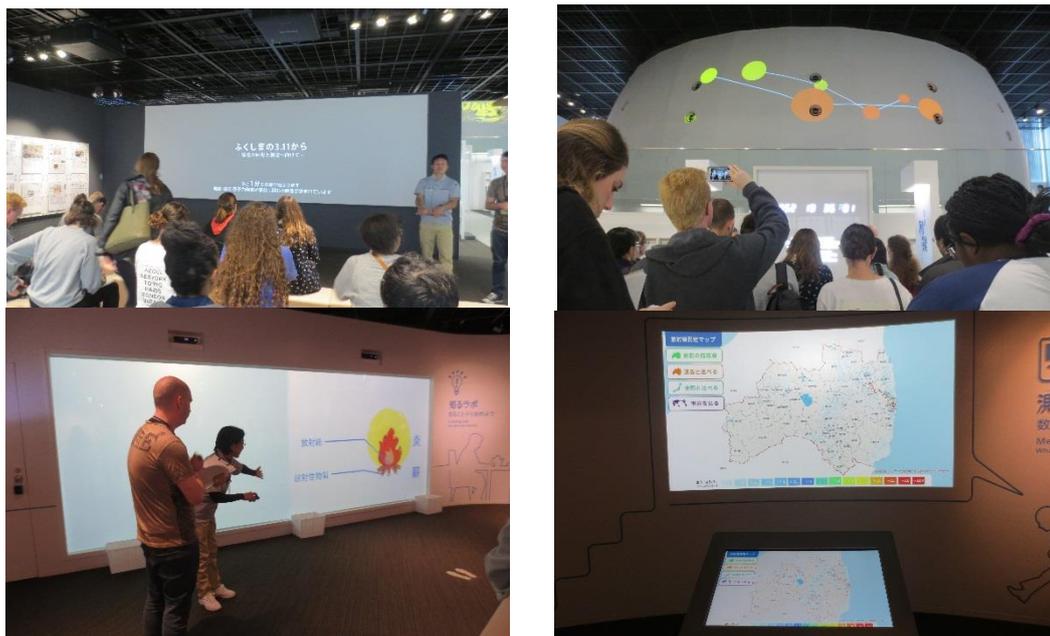


10月ツアーの宿泊先は、土湯温泉『松雲閣』です。参加者が楽しみにしていた温泉だけではなく、女性には色とりどりの浴衣を貸していただくとともに、豪華な食事をいただき、存分に『温泉』を満喫できました。夕食中には、県内で働くJETが交流・情報交換し、福島の魅力について語りあいました。



### 10月23日（日曜日）

2日目は、福島県環境創造センター「コミュタン福島」で福島の復興の歩み、放射線対策などを学びました。「放射線」についての詳しい説明、震災後現在までの除染対策や復興状況を聞き、県内に在住している参加者の知識に大きなプラスになったと思います。また、福島の四季を写した最新の360度パノラマシアターやニコニコ動画のようなメッセージパネルにも、参加者は釘付けでした。



2日目の昼食は、三春ハーブガーデン SARARA でランチビュッフェをいただきました。地元の野菜を使った様々なメニューに、参加者は満腹・満足なランチタイムになりました。



次の見学地は田村市にある「あぶくま洞」です。全員で鍾乳洞の散策をし、体力に自信のある参加者は更に奥の探検コースに進み、それ以外は外で風景を撮影したりお土産を選んだりして福島 of 自然を堪能しました。



最後の見学地は「福島 GAINAX 空間とアートのミュージアム福島さくら遊学舎」です。クールジャパンとして、日本のアニメ・漫画は海外で人気があり、県内の JET 参加者も例外ではありません。このツアーで1番の楽しみだったという参加者もいて、皆目を輝かせて見学していました。館内の案内、展示の説明も全て英語で行っていただいたので、あまり日本語が分からない参加者にも満足の時間となりました。最後に、『すてかん』というたて看板に絵を書くことができ、それぞれの国の国旗や好きなキャラクターなど、参加者は予定時間が過ぎても熱心に書き込んでいました。





今回のツアーは県内に勤務するJET20名に参加していただき、充実したスタディーツアーとなりました。次のツアーは、昨年也大好評だった『冬のスキー・スノーボード ツアー』を2月に開催する予定です。更に福島の魅力を知ってもらい、福島を理解して賞えるようなツアーを計画します。

JET 参加者の皆さん、「福島」をもっと良く知るためにスタディーツアーに是非ご参加ください。また、どんどんホームページやSNSで情報発信をしてください。

最後になりましたが、ご協力いただきました見学先の皆さま、本当にありがとうございました。今回からサブタイトルに～ふくしまディスカバリー ツアー～と追加したとおり、福島を発見し、参加者にとって、スタディーツアーとして「福島を学ぶ」だけでなく、とても楽しく思い出に残る良い経験になったと思います。